

学部等	学科等	①大学・大学院の設置理念 ①学科・専攻の設置理念		②教員養成に対する理念・構想（大学、大学院） ②教員養成に対する理念・構想（学科、専攻）	
		③認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等/免許校種ごと）			
		①大学の「①設置理念」「②教員養成に対する理念・構想」	<p>成蹊学園創立者中村春二が目指した教育理念である「自発的精神の涵養と個性の発見伸長を目指す真の人間教育」を踏まえ、知育偏重ではなく、人格、学問、心身にバランスのとれた人間教育を実践し、確かな教養と豊かな人間性を兼ね備え、社会の発展のために献身的に貢献できる人材を輩出すること、学術の理論及び応用を教授研究し、自由な知の創造をはかり、もってその深奥を究めて文化の進展に寄与すること、地域社会に根ざしつつ、世界に開かれた教育・研究機関として、その成果を社会に還元することを通じて、人類の共存に寄与することを設置の理念とする。</p> <p>なお、成蹊学園では、2018年に成蹊学園サステナビリティ教育研究センターを設置するとともに、2019年には成蹊学園としてユネスコスクール認定を受け、SDGsやESDの活動を推進することにより、大学のみならず併設する小学校、中学校及び高等学校とともに、文部科学省平成29年度告示小学校学習指導要領及び中学校指導要領の前文にも掲げられている「持続可能な社会の創り手」の育成に努めている。</p>	<p>本学は、「知育偏重ではなく人格、学問、心身にバランスのとれた人間教育の実践」を唱える学園創立者中村春二の教育理念を受け、“桃李”が人を惹きつけるように、世人が慕って自然と集まり従う、徳を備えた人物の育成を理想とし、「個性の尊重と人格陶冶による豊かな人間性の形成」という建学の精神を掲げて中等教育から出発した成蹊学園の伝統を受け継ぐ大学である。この理念・精神を成蹊教育の原点として学生一人ひとりの個性を尊重し育てることを大切にしてきた。大切に育てられた個性や人格陶冶による豊かな人間性は、視野の広い教養と高度の専門的知識・技能に裏打ちされていることも不可欠である。</p> <p>設置する文系4学部（経済学部・法学部・文学部・経営学部）と理工学部において、そうした願いの下に教養教育と専門教育に取り組んでいる。またこれら5学部が同一キャンパスにあることから、成蹊教養カリキュラムの授業やクラブ・サークル活動を通していろいろな価値観をもった学生同士の接触・交流が広がっており、お互いの個性を尊重し合う社会性を育てている。</p> <p>こうした理念、環境のなかで徐々に醸成される豊かな人間性と能力は、社会的要請である「豊かな人間性を持ち生徒を惹きつける個性的な魅力をもつ資質・力量の高い教員」という要件に合致したものにほかならない。本学はまさに社会の期待に応えられる教師を育て、送り出すための好適な条件を備えていると言って良いであろう。このような利点を大いに活かし、本学は「開放制教員養成制度」の趣旨に則って、教師としての責任感や愛情を育み、教職に関する深い教養と教育的技能を教授する課程を大学教育の一領域に位置付け、全学科・研究科における専門教育に応じた教科で、教職課程を構築することとした。広い視野を持ち、高度の専門的知識・技能、科学的探究精神を身につけ、理論的考察力においても実践的教育活動においても、生徒・保護者ばかりでなく、日本国民や世界の人々の期待に応えて活躍できる教師を育成することを願うものであります。教育界に貢献できる教師を送り出すことは、大学としての社会的責任を果たすことになると考える。</p>	
法学部	政治学科	①設置理念「②教員養成に対する理念・構想」	<p>法は個人の権利と社会や組織の円滑な活動を保障するものであり、政治はそうした法を生み出し実行する究極の原動力となるものである。この意味で、法と政治は人間にとって決して欠かすことのできない要素であり、その重要性は今日とりわけ増大しているといえる。</p> <p>法学部における学問は、このように専門性の高いものであると同時に、人間とは何かという原理的な問いへの哲学的かつ歴史的な考察を伴わざるをえないものである。成蹊大学法学部は、学生との相互のコミュニケーションを取りながら、授業の工夫とカリキュラムの定期的な点検を通じて、このような学問的特徴と使命を持つ法学教育がさらに魅力あるものとなるよう常に努力し実施することを基本理念とする。</p> <p>この基本理念に基づき、成蹊大学法学部では、法と政治に関する専門的な知識を与えるとともに、それを通じて、社会科学的な思考力と合理的な判断力を持った国際感覚豊かな人材の養成を図ることを教育研究上の目的とする。この学部の理念・教育研究上の目的に即し、政治学科としての具体的な教育研究上の目的（人材養成像）を次のように定める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主として地方自治から国際政治にまで至る多様な問題に関する学修を通じて、政治及び人間について思想的、歴史的及び実証的な深い考察力を持ち、世界を見通す確かな分析力及び未来を構想する豊かな想像力を身につけた国際感覚豊かな人材の養成を図る。</li> <li>これらの教育研究上の目的、人材養成像等をもとに、「専門分野の知識・技能の修得」「教養の修得」「課題の発見と解決」「表現力、発信力」「多様な人々との協働」「自発性、積極性」の各項目に関して、以下の基準に到達するように編成された教育課程において、所定の単位を修得した者に対して学士（政治学）の学位を授与とするディプロマ・ポリシー【略】を定めている。</li> </ul>	<p>政治学科では、地方自治から国際政治に至るまで多様な問題に関する学修を通じて、世界を見通す確かな分析力と未来を構想する豊かな想像力とを身につけた人権感覚及び国際感覚の豊かな人材の育成を目的としている。その教育課程を生かし、さまざまな対立・紛争において個人の権利と社会・組織の円滑な活動との双方を保障しようとする営為である政治についての専門性を持ち、政治及び人間について思想的・歴史的・実証的な深い考察力を身につけた教員を養成することを目標としている。</p>	
		③認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等）	<p>○中学校一種免許状（社会） 政治学科が教職課程を設置する趣旨は、政治系科目を中心とする科目の提供により、学習指導要領の定める各教科の目標に適合した教員を養成することにある。すなわち、政治学科の提供する政治系科目を、政治学科で履修する法律系科目や教職科目・教養科目とあわせ学ぶことで、社会と人間に関する広い視野と深い洞察をもち、そこから得たビジョンによって社会に貢献しようする教員を養成することが、設置の趣旨である。 中学校一種免許状（社会）においては、具体的には、日本国の基本理念および国家体制の基礎を憲法に関する科目で学ぶとともに、政治・経済はもとより、世界各地の歴史・文化、倫理・哲学、思想史などを学ぶことを通じて、自らの国・社会について深い知識を持つとともに、世界的視野を持ち、平和で民主的な市民の形成を担う人材の養成を目指す。</p>		
		③認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等）	<p>○高等学校一種免許状（地理歴史） 政治学科が教職課程を設置する趣旨は、政治系科目を中心とする科目の提供により、学習指導要領の定める各教科の目標に適合した教員を養成することにある。すなわち、政治学科の提供する政治系科目を、政治学科で履修する法律系科目や教職科目・教養科目とあわせ学ぶことで、社会と人間に関する広い視野と深い洞察をもち、そこから得たビジョンによって社会に貢献しようする教員を養成することが、設置の趣旨である。 高等学校一種免許状（地理歴史）においては、具体的には、世界各地の歴史・文化、思想史などを学ぶことを通じて、空間軸・時間軸双方に目を配ることのできる多角的で立体的な世界的視野を持つと同時に、自らの国・社会の文化や歴史についても深い知識をもち、平和で民主的な市民の形成を担う人材の養成を目指す。</p>		
		③認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等）	<p>○高等学校一種免許状（公民） 政治学科が教職課程を設置する趣旨は、政治系科目を中心とする科目の提供により、学習指導要領の定める各教科の目標に適合した教員を養成することにある。すなわち、政治学科の提供する政治系科目を、政治学科で履修する法律系科目や教職科目・教養科目とあわせ学ぶことで、社会と人間に関する広い視野と深い洞察をもち、そこから得たビジョンによって社会に貢献しようする教員を養成することが、設置の趣旨である。 高等学校一種免許状（公民）においては、具体的には、憲法を中心とした法律学科が提供する科目と並んで行政学、政治過程論から国際政治学、比較政治、さらには政治理論、政治思想史、社会思想史に至るまでの政治学全般を学ぶことで、世界各国との比較の目を持ちながら、日本国の基本理念と国家体制の基礎、さらに日本政治の実際について深い知識をもち、平和で民主的な市民の形成を担う人材の養成を目指す。</p>		

様式第7号ウ 本来は認定課程ごとに作成するものであるが、まずは基本としてまとめて作成。今後別々にしていく。

<法学部政治学科> (認定課程: 中一種免(社会)、高一種免(地理歴史)、高一種免(公民))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>前期では、教育の基礎的理解に関する科目においては、教師となるために必要な知識と内容を把握し、教育に関する基本的な概念や理論、子どもの発達と各発達段階における特徴とそれに応じた学習メカニズムと支援の方法、などについて学び、教職への関心・理解および進路としての意識付けが各自でできることを到達目標とする。</p> <p>教科及び教科の指導法に関する科目の履修においては、「政治学への案内」「現代日本の政治」「哲学の基礎」等の科目を履修することによって、社会系の教科についての基礎的かつ包括的知識の習得を到達目標とする。また学科必修の演習科目「社会科学方法論Ⅰ」を履修し、大学での学習の基礎的な力量を身につけることを到達目標とする。</p>
	後期	<p>後期では、前期に引き続き、教育の基礎的理解に関する科目においては、教育改革、教育諸問題、改訂教育基本法・学校教育法の要点を理解するとともに学校教育の今後に対する考察を行うための知識と能力を身につけ、生徒指導および進路指導の実践的能力を身につけることを到達目標とする。</p> <p>教科及び教科の指導法に関する科目の履修においては、前期に引き続き「憲法」「現代の国際関係」等の科目を履修することによって、社会系の教科についての基礎的な知識とともに、包括的な内容の習得を到達目標とする。また前期から継続して学科必修の演習科目「社会科学方法論Ⅱ」を履修し、大学での学習の基礎能力を身につけることを到達目標とする。</p>
2年次	前期	<p>前期では、教育の基礎的理解に関する科目等においては、1年次の概論的な科目から各論に進んだ科目を履修する。具体的には、教育課程のあり方、指導案作成や教育方法、情報通信技術(ICT)を活用した教育、教育相談とカウンセリングに関する基礎的な知識と技法、特別支援教育の内容および役割などへの知識と基礎的技能を習得していることを到達目標とする。</p> <p>教科及び教科の指導法に関する科目の履修においては、「政治学原論」「国際政治学」など、政治学専攻学生として身につけるべき専門性の高い科目の履修並びに「日本史概論Ⅰ」「世界史概論Ⅰ」「人文地理学」「自然地理学」「ミクロ経済学基礎」など地理歴史および公民の一般的包括的内容の科目の履修によって中学校社会科、高等学校地理歴史科および公民科の教科内容を習得していることを到達目標とする。さらに、2年次から3年次にかけて必修として履修する演習科目(演習ⅡA)により、政治学の基礎概念を修得するとともに、具体的なテーマについて多様な文献を読解する力を養いながら、個人およびグループ研究・発表を通して教員としても必要なコミュニケーション能力を養成することを到達目標とする。</p>
	後期	<p>後期では、教育の基礎的理解に関する科目等については、前期に引き続き、各論に進んだ科目を履修し、教育課程や授業を進める上での諸技法等を習得することを到達目標とする。</p> <p>教科及び教科の指導法に関する科目の履修においては、「日本史概論Ⅱ」「世界史概論Ⅱ」「地誌学」「マクロ経済学基礎」など地理歴史およびの一般的包括的内容の科目の履修、「日本政治史」「現代ヨーロッパ政治論」「各地域の政治外交論」など政治学科専門科目の履修により専門知識の理解を高めるとともに、「社会科・地理歴史科教育法」「社会科・公民科教育法」において学習指導要領に示された中学校社会科、高等学校地理歴史科および公民科の目標及び内容、教科指導の基本的知識の習得していることを到達目標とする。さらに、2年次から3年次にかけて必修として履修する演習科目(演習ⅡB)により、政治学の基礎概念を修得するとともに、具体的なテーマについて主体的な調査・分析等の手法を学びながら、個人およびグループ研究・発表を通して教員としても必要なコミュニケーション能力を養成することを到達目標とする。</p>
3年次	前期	<p>前期では、道徳、総合的学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目においては、模擬授業とその検討を通じて、道徳、総合的学習の時間や特別活動などの基本的な指導の在り方を身につけることを到達目標とする。また、教科の指導法では、2年次後期に引き続き「社会科教育法A(主として地理歴史分野)」「社会科教育法B(主として公民的分野)」を履修し、教科指導の基本的知識、授業案の作成手順をふまえて、模擬授業によって、特に中学校における教科指導の具体的な内容を習得することを到達目標とする。</p> <p>学科カリキュラムの履修においては、政治学における高度な専門性をもつ科目の履修に加え、2年次から3年次にかけて必修として履修する演習科目(演習ⅢA)により、具体的なテーマについて文献講読、調査分析力を基礎として自らの意見をまとめる力、プレゼンテーション、批判的検討力、意見の発信力など総合的コミュニケーション力を備えることで、教員としても必要な能力を養成することを到達目標とする。</p>

	後期	<p>後期では、次年度の教育実習の準備としての科目である「教育実習論」を履修し、教育実習の意義と課題を確認し、心構え、態度、基礎知識、実情、判断力および話し方や板書といった実践技能を修得することを到達目標とする。また、「教職特論演習Ⅰ」の履修で、卒業後の教員採用を視野に入れ、これまで学んできた教職、教科のみならず教員として必要とされる幅広い知識を得ることもできるようにする。</p> <p>教科の指導法では、「地理歴史科教育法」「公民科教育法」を履修し、2年次後期から履修した各教科教育法の知識を前提として、教科指導の基本的知識、授業案の作成手順を確実なものとした上で模擬授業を行い、教科指導の具体的な内容を確認させることを到達目標とする。</p> <p>学科カリキュラムの履修にあつては、2年次から3年次にかけて必修として履修する演習科目(演習ⅢA)により、これまでに備えた能力を生かしながら、ゼミ履修の集大成とした論文・レポートの作成を行うことで、教員としても必要な能力を確実に具有することを到達目標とする。</p>
4年次	前期	<p>教育実習年度となり、「教育実習(中・高)」または「教育実習(高)」を履修する。この科目は、前年度後期の「教育実習論」に引き続き、教育実習の事前指導を受けたのち、実習校における実際の教育実習を行い、そして実習終了後の事後指導を受けることによって、学校教育を体験研究し、授業をはじめとする教員の基礎的な力量を身につけることを到達目標とする。</p> <p>学科カリキュラムの履修にあつては、これまで履修できなかった科目の履修とともに、必修とはしていないが、「演習ⅣA」で、現代の社会問題から主体的に定めた研究課題をより深く探求する能力を養成することを到達目標とする。</p>
	後期	<p>後期では、教職課程の集大成として「教職実践演習(中・高)」を履修する。これまでの教職課程の科目履修を振り返り、教員として必要な資質とは何かをもう一度問い直すことで、すでに備わっている事項と不足している事項を認識する。これにより、資質の高い教員をめざす力量を獲得することを到達目標とする。</p> <p>学科カリキュラムの履修にあつては、必修とはしていないが、前期の「演習ⅣA」に続く「演習ⅣB」で、現代の社会問題から主体的に定めた研究課題をより深く探求する能力を養成することを到達目標とする。</p>

様式第7号ウ（教諭）

<法学部政治学科>（認定課程：中一種免（社会）、高一種免（地理歴史）、高一種免（公民））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	C	教職論	現代日本の政治		College English (Listening & Speaking) I	College English (Reading & Writing) I
		2	B	教育原理	政治学への案内		情報基礎	社会科学方法論 I
		2	E	教育心理学	比較政治経済			
	後期				哲学の基礎			
		2	D	学校と社会	憲法		College English (Listening & Speaking) II	College English (Reading & Writing) II
		3	L	生徒指導論	現代の国際関係		健康・スポーツ演習 B	社会科学方法論 II
				進路指導論		(憲法)		
2年次	前期	2	F	特別支援教育概論	政治学原論	学校経営と学校図書館		College English (Integrated Skills) I
		3	K	教育の方法と技術	国際政治史			演習 II A
		3	M	教育相談	国際法 I			
					国際政治学			
					日本史概論 I			
					世界史概論 I			
					人文地理学			
	後期				自然地理学			
		2	G	教育課程論	現代ヨーロッパ政治論	学習指導と学校図書館		College English (Integrated Skills) II
		3	R	ICT活用の理論と方法	日本政治史			演習 II B
				社会科・地理歴史科教育法	アメリカ政治外交論			
				社会科・公民科教育法	日本史概論 II			
			世界史概論 II					
			地誌学					
			戦後の日本と世界					
3年次	前期	3	I	総合的な学習の時間の指導法	ミクロ経済学基礎	読書と豊かな人間性		演習 III A
		3	H	道徳教育の指導法	西洋政治思想史			
				社会科教育法A	地方自治論			
				社会科教育法B				
	後期	3	J	特別活動の指導法	マクロ経済学基礎	教職特論演習 I		演習 III B
		4		教育実習論	東南アジア政治社会論	情報メディアの活用		実践話し方講座
				地理歴史科教育法	知的財産法 I			情報活用F
				公民科教育法	近現代の欧米B			
4年次	前期	4		教育実習(中・高)	中東政治社会論	教職特論演習 II		演習 IV A
	後期	4		教職実践演習(中・高)		学校図書館メディアの構成		演習 IV B